2024年度「自己評価結果報告書」

当園ではこの度、2024年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

カトリック精神に基づき、子供たちに暖かい雰囲気と良い環境を整え、時代に合わせた保育を行いたいと考えています。

常に家庭との連絡を密にしながら、日々の保育、行事を通して、神さまの存在や、命の大切さを知らせ、自立心を養うよう保育を行っています。

II. 今年度の重点目標

- 保育計画
- 遊びを基にした教育
- 安全・健康への取り組み
- 新しい取り組みの検証
- カトリック園として

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	
1 保育計画	<ul style="list-style-type: none">・当幼稚園として重点を置くこと、どんな子どもに育つよう保育するか、この園の保育でどんなことが身に付くのか、年度始め、学期始めに教職員間で確認しあう機会を持つ。・保護者が何を求めているかを理解し、そのニーズと従来の保育を上手に合わせた計画を立てていく。	A- <ul style="list-style-type: none">・今年度はパンフレットを作成にあたり、当園として重点を置くこと、子どもたちに身に付けてほしいこと等を、全教職員で再考することができた。時間をかけて話し合い、それを明文化することにより共通の認識が持てた。・各学年で日々しっかりと保育をおこなっているが、それぞれの保育内容の共有という点では少々足りなかった。日々の保育の様子、保育方針などの情報を共有できる時間を増やしたい。・保護者のニーズに応え、新たな取り組み（宅配弁当、預かり保育等）を始めているが、通常保育の準備等に支障をきたすこともあるため、今後の工夫が必要である。
2 遊びを基にした教育	<ul style="list-style-type: none">・生活や遊びの中で、ルールを守り楽しく活動し、友達と喜びを共有したり、頑張ったり、時には我慢したりしながら豊かな心の体験が得られるようにする。・数量、文字、図形などに関して園生活の中で無理なく興味や関心が持てるよう取り上げていく。・表現活動を通して、工夫したり、考えたり、幼児なりの創造性を発揮できるようにする。・絵本や物語を使って、想像力や言葉に対する興味を育てる。	A <ul style="list-style-type: none">・「遊び、環境を通しての総合指導」の理念のもと、子どもたちが楽しみながら、年齢に合わせた興味や関心の持てるカリキュラムを工夫することができた。・教師の細やかな工夫により、体操や遊戯では動きの正確さ、本の読み聞かせでは、興味や集中力を高めることができた。・今年度の長組は少人数であったので、学年全員で取り組めることが多く、友達の様々な気持ちを共有でき、豊かな経験につながった。・文字や数に関しては個人差が大きい。特に全員で行う本読みは今後工夫が必要である。
3 安全・健康への取り組み	<ul style="list-style-type: none">・様々な条件を設定して防災・防犯訓練を行い、子どもたちともよく話し合う。訓練の結果を職員間で共有し、次の訓練に生かしていく。・コロナ流行で培った衛生管理を今後に生かしていく。・一人の幼児をじっくり見ながら周囲にも気を配り事故が起きないように、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行う。子どもと一緒に見たり考えたりして、安全な遊び方に気付くようにする。	B <ul style="list-style-type: none">・各学年、様々な条件を設定しての防災・防犯訓練を行い、子どもたちへは避難時に気を付けること、防災頭巾の使い方など具体的な指導を行い、訓練後の振り返りも行っている。年度の後半は行事に追われ回数が減ってしまった。また園全体での訓練が足りないため、今後回数を増やしていきたい。・不審者侵入等、防犯訓練に関しては足りない部分も多い。訓練のみでなく出入りの多い日常の防犯対策も再考していきたい。・コロナ禍で培った衛生管理は続けていくとともに、過度になってはいないか、その時期の状況に合わせた管理が必要と思う。

2024年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園
枝光会駒場幼稚園

評価項目		取組み内容	
4	新しい取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から、宅配弁当や延長保育、希望者への英語、が始まり、ドライブスルー（登園時に車中から降りずに子どもを預ける）が再開した。取り組みを始めたことにより、良かった点、日常の保育準備への影響など今一度検証しなおし、よりよい園を目指す。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅配弁当は保護者のニーズに応じて始めたが、全ての弁当日ではなく週1～2回とし、家庭の手作り弁当の日も残している。これにより、子どもたちには家庭の弁当と宅配、両方の良さを体験してもらうことができている。目黒区からの補助により保護者の負担が無いのも良い。 ・延長保育は利用者も多く保護者から好評を得ている。教師として新たに発見することも多かったが、通常保育の準備や職員間の話し合い等の時間が削られるなど、負担も増えている。今後の工夫が必要である。
5	カトリック園として	<ul style="list-style-type: none"> ・園長だけでなく、各学年の教員からも子どもたちへカトリックの教えが伝えられるようにする。 ・カトリック幼稚園の教員であることを自覚し、それぞれがキリストの教えを学びそれを幼児にどのように伝えるか、指導法を全体で研究する。 ・カトリック教会との連携を図り、キリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にする。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カトリックの行事や教えに関し、教師から繰り返し話をしたり、それらにまつわる名画や紙芝居を見せるなど、各学年で教えを伝える努力ができている。今後は教師誰もが指導できるよう、園として年齢や時期にふさわしい内容をまとめていきたい。 ・年長組は神父様からお話を聞く機会を持つことができた。教師がその内容をポスターに掲示し子どもたちと振り返るとともに、保護者にも掲示をご覧いただき供給していただくよう工夫した。 ・教師はひと月に一度、直接教会に出向いて神父様から話を伺うことにより、カトリック園の教師としての自覚・知識を高めることができている。会議等の時間を利用し、園長からもカトリックの行事、決まりなどを教師に伝え理解を深めていくようにしたい。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	保育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作製を機に、園として重点を置くこと、どんな子どもに育つよう保育するか、この園でどんなことが身に付くのかを明文化することができたが、これを年度始め、学期始めに教職員間で確認しあう機会を持つ。 ・園全体で一連の流れのある具体的な保育計画を目指す。
2	教職員間の連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの取り組みが他の学年の教師にもわかるよう知らせる機会を持ち、全体の保育にも生かせるようにする。 ・教職員全体で一つのチームであることを意識し、学年単位でなく、お互いの学年を助け合う雰囲気づくりに努める。 ・より良い保育を目指し、教師一人ひとりが自ら考え、活発に意見を交換することで保育の質を高める。
3	防災・防犯の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な条件を想定し定期的に防災・防犯訓練を行い、子どもたちともよく話し合う。訓練の結果を職員間で共有し、次の訓練に生かしていく。 ・不審者対応など特に防犯に対する備えについて、よく話し合い具体的な対策を再考する。
4	新しい取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> ・宅配弁当や延長保育、希望者への英語等の新しい取り組みは保護者のニーズに答えられているか検証し、新たな取り組み、改善できる点を考える。また、日常の保育準備や会議などに影響が出ないよう、よりよい方法を考えていく。
5	カトリック教育	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリック精神に基づいた教育が当園の中心であることを、それぞれの教員が自覚し、教えのみでなく、命の大切さや相手を思いやる心を伝えられるようにする。 ・子どもたちに教えを伝えられるよう各教師が学び、指導の方法を考えていく。

V. 学校関係者の評価

- いつも先生方は、美しい日本語で子供たちに接していただき、子供たちに自然と浸透しておりますことはもちろん、親にとりましても、使う言葉を選ぶ成長の機会となっております。
- 毎日、輪になってお友達と心をひとつにしてお祈りすることで、神様へ向かうカトリックの心が自然と育っております。特に子供から自然と神様のお話が出たり、聖歌を歌っていたりという瞬間に感じられます。
- ひとつひとつの行事を先生方が全て手作りで、非常に熱心に子供たちをご指導くださっています。そのため、子供たちもまた、自分ごととして、幼児ながらに責任感をもち、自分がやらなければいけないという意識を持ち参加しております。みんなでひとつの作品を作り上げる喜びと達成感を体験させていただいております。またそれにより、周りを思いやる気持ちや、コミュニケーション能力、体調管理への意識が向上し、子供たちがひとつの行事ごとに確かに成長していることを感じております。
- 日常の保育の中で、学年ごとに少しずつできることを増やして下さっているの、無理なく着実にできることが増えております。年長組では、ホワイトボードに書いてある予定表を見て、1日のスケジュールを確認して見通しと時間の感覚を持って動くことができるようになっております。小学校にむけて、大きな壁を感じることなく移行できると思っております。
- 先生方は優しさの中にも規律をもって接して下さっており、工作などの指示は基本的に一回で、子供たちはそれを聞き取ることが求められるため、集中しています。
- 保育時間中、非常に充実したカリキュラムを行って下さっていますが、先生方は自由遊びの時間も子供たちと向き合い遊んで下さるので、子供たちは先生がとても好きで、毎日楽しみに幼稚園に通っております。
- 伝統を大切にしながらも、新しい試みも柔軟にとりいれて下さっています。
- 宅配のお弁当の導入や、食育にも取り組んで下さっています。お友達とゲーム形式で栄養素について学んだことで、食事をバランスよく摂ることへの意識が向上いたしました。
- 体操カードにより、子供たちは自然と体操技術向上意欲を持つようになりました。
- 延長保育時にただ遊ぶだけでなく、希望者はワークショップや工作ができることを子供たちが楽しみにしております。

学校評価委員 大賀 郷子

学校評価委員 林 亜美

学校評価委員 穴水 真理

学校評価委員 澤山 万希子